

2. 教育部門報告 (2019年4月～2020年3月)

田中 信之
濱田 美和
副島 健治

国際機構では、富山大学に在籍する外国人留学生・外国人研究者のための日本語プログラムとして、日本語研修コース、日本語課外補講、総合日本語コース、これら三つを提供している。2019年度は、前期は日本語研修コースと日本語課外補講と総合日本語コースを開講したが、日本語研修コースは受講者1名が辞退したため、閉講することとなった。後期は日本語課外補講と総合日本語コースを開講した。

2019年度の日本語プログラム全体の受講者数は、前期が72人、後期が96人であった。各日本語プログラムでは専任教員がコーディネーターを務め、受講登録や成績に関わる業務を行った。また、日本語プログラムの科目の大部分は複数プログラムの合同授業となっているため、初級、中級、上級クラス別の担当者(専任教員)を設け、クラス運営を行った。毎日の授業内容と学生の出欠状況を記録・閲覧できる「授業記録システム」を活用して受講者の学習の進捗状況を把握し、日々の授業に取り組んだ。学期末にはクラス別に授業アンケートを実施し、日本語プログラム講師ミーティングにおいてアンケート結果を共有することにより、授業改善を図った。日本語プログラム以外には、留学生の日本語学習を支援するためのサイト「日本語学習支援サイト RAICHO」の運営を行った。

また、2019年度は二つの公開講座を開講することができた。一つは令和元年度学長裁量経費により、外国人労働者向けの日本語教育の調査を行ったうえで、日本語・日本文化講座を実施した。もう一つは、公益財団法人日本語教育学会と講演・ワークショップを開催した。テーマは「対話的評価活動を取り入れたクラス活動を考えるー内省型ルーブリックの作成を通してー」であった。

以下、日本語課外補講、ライデン大学短期日本語研修プログラム、総合日本語コース、日本語プログラム授業アンケート、日本語学習支援サイト RAICHO の順に活動状況を報告する。